

# 病虫害防除技術情報第5号

平成19年11月14日

三重県病虫害防除所

## イチゴのハダニ類が増えています

1 対象作物 イチゴ

2 病虫害名 ハダニ類

3 発生状況

- (1) 11月上旬の巡回調査(10圃場)では、平均寄生株率は12.7%で、多発した前年度同時期(19年1月19日注意報発表)より高く(前年11.4%、H15~18平均7.7%)、発生圃場率も70%と高い状況(H13~18平均42.9%)です。
- (2) 向こう1ヶ月の気象予報(11月9日発表)によると、平年と同様に平野部では晴れる日が多く、気温の高い状態が続きますが、2週目は気温が低くなる予想です。今後気温が高くなれば発生量がさらに増加する恐れがあります。

4 防除対策

- (1) 早期発見に努め、少発生のうちに防除をしてください。
- (2) 薬液がかかりやすくなるよう、不要な下葉を除去して丁寧に散布してください。
- (3) 散布にあたっては、天敵やミツバチに対する影響に十分注意してください(別表参考)。
- (4) 除去した下葉(特に被害葉)には、ハダニ類が寄生していることがあるので施設外で処分してください。
- (5) ハダニ類は抵抗性が発達しやすいので、同一薬剤や同一系統薬剤の連用は避けてください(別表ではピラニカEWとサンマイルフロアブルが同一系統です)。
- (6) 農薬は、ラベルの表示を確認して正しく使用してください。

三重県病虫害防除所

電話 (0598) 42-6365

FAX (0598) 42-7568

別表

(参考)イチゴのハダニ類に対する主な防除薬剤とミツバチ、天敵に対する影響

薬剤名	成分名	希釈倍数	使用時期 (収穫前日数)	使用回数及 び主成分の 総使用回数	ミツバチに 影響する 日数	フカブリタニ に対する影響			ミヤコブリタニ に対する影響			コルマンアラバチ に対する影響		
						卵	幼	残	卵	幼	残	マ	成	残
アカリタッチ乳剤 (高温時の薬害注意)	プロピレングリコール モノ脂肪酸エステル	2000倍	前日	6回	1			0	-	-	-	-	-	-
オサダンフロアブル	酸化フェンブタ スズ	2000倍	前日	3回	3			0			0			0
カネマイトフロアブル (19.5.9適用拡大)	アセキノシル	1000～ 1500倍	前日	1回	1									
コロマイト水和剤	ミルベメクチン	2000倍	前日	2回	1									
ダニサラバフロアブル (19.10.26登録)	シフルメトフェ ン	1000倍	前日	2回	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ニッソラン水和剤	ヘキシチアゾ クス	2000～ 3000倍	前日	2回	1			0	-		0			0
粘着くん液剤	デンブン	100倍	前日	6回	0		-	*		-	*	×	-	*
バロックフロアブル	エトキサゾー ル	2000倍	前日	1回	1	×		-	×		-	-	-	-
ピラニカEW	テブフェンピラ ド	2000～ 3000倍	前日	1回	1	×	×	-	×	×	-	-	-	-
マイトコーネフロア ブル	ビフェナゼート	1000倍	前日	2回	1			0			0	-	-	-

注) 薬剤の影響日数について、ミツバチはメーカーの技術参考資料をもとに、天敵については日本バイオリジカルコントロール協議会の「バイオコントロール」第11巻第1号(2007)から作成しました。影響日数は、あくまで目安であり保障された日数ではありませんから注意してください。

卵：卵に、幼：幼虫に、成：成虫に、マ：マミー(寄生蜂の蛹)に対する影響

残：その農薬が天敵に対して影響のなくなるまでの期間で単位は日数

\*：薬剤乾燥後に天敵を導入する場合には影響ないが、天敵が存在する場合には影響が出る恐れあり。

○：死亡率0～25%(野外・半野外試験)、△：死亡率0～30%(室内試験)

□：死亡率50～75%(野外・半野外試験)、◇：死亡率80～99%(室内試験)

×：死亡率75～100%(野外・半野外試験)、×：死亡率99～100%(室内試験)

-：試験データなし

空欄：「バイオコントロール」に記載なし